

自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース／井上 奈穂

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマとして、「社会系教科のための学習支援ツールの開発」を考えている。「社会認識を通して市民的資質の育成を図る」ことを目的とする社会系教科は、取り上げられている社会事象の理解だけでなく、意見の表明、他者との意見交換など複合的な学習形態から構成される授業が多い。本研究のねらいは、このような複合的な学習形態をサポートする「学習支援ツール」の開発である。

計画としては以下の通り。

- ①ある授業理論を選択し、それに基づく高等学校における社会系教科の授業とその授業に対応する「学習支援ツール」を開発する。
- ②開発した授業の実践を通して、学習支援ツールの有効性を実証的に明らかにする。

2. 点検・評価

今年度は、以下の科研を申請した。
挑戦的萌芽研究へ「人権教育を核とした「市民性」を育成する東アジア型社会科授業のパースペクティブ」をテーマに申請を行った。

また、年度目標として挙げていたテーマに関しては、以下の学会発表を行った。
井上奈穂「社会科授業における学習評価方略の構成－高等学校日本史Aの実践を事例に－」2012年度全国社会科教育学会自由研究発表(於 岐阜大学)

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

- ・学部生の大学院への勧誘を行う。
- ・他大学を訪問し、本学の大学院についての広報を行う。

2. 点検・評価

ゼミ等を通じて、学部生への大学院の紹介・勧誘を行った。
徳島大学、甲南女子大学、愛媛大学、高知大学を訪問した際、本学の大学院についての広報を行った。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・授業時間外においても可能な限り時間を取り、学生が質問等をしやすい状況をつくる。
・学生が主体的に学ぶ環境づくりに努める。
・担当学年である3学年を中心に、学校生活について相談があれば、随時相談にのり、充実した学生生活が送れるように支援していく。

2. 点検・評価

授業後、学期末等を利用し、学生とのコミュニケーションに努めた。
ライブキャンパスにワークシートをアップし、学生が授業の復習が出来るような手立てを行った。
教員採用試験に向けての履歴書・応募書類等の書き方を教えた。
学生が主体的に学べるよう「作業課題」を設定した。
学生生活についての相談に応じた。

II-2. 研究

1. 目標・計画

・自らの専門である社会科教育分野における評価に関する研究について、学問的な見地を踏まえた論文、研究会での発表等を通して積極的に発信する。
・附属学校等の研究会に積極的に参加し、自らの専門分野を踏まえた助言等を通して、教育現場におけるアップデートな社会科教育に資するよう心がけたい。

2. 点検・評価

以下の研究会・学会に参加し、発表した。
第1回社会科評価研究会での発表「「活用力」の思考過程に対応した4つの評価問題思案」2012年5月13日於 神戸センタープラザ第1会議室
第1回連合研究科共同研究プロジェクトN研究会議での発表「授業改善におけるPDCAの検討課題」2012年6月10日(日)於 兵庫教育大学連合大学院大阪サテライト
第2回社会科評価研究会での発表「社会科における活用力の評価について(地理編)」2012年7月22日於 神戸センタープラザ第1会議室
第29回鳴門社会科教育学会シンポジウム発表「「社会的判断力」育成を目指す社会科授業の成立要件」2012年7月28日 於 鳴門教育大学
第27回岡山社会科授業研究会での発表「社会科における評価方略－論争問題を扱う授業を対象として－」2012年8月4日 於 岡山大学
第5回中日教師教育學術研究集会での発表「教員養成における授業開発を通して社会科教材開発力の育成」2012年9月16日 於 北京師範大学
2012年度全国社会科教育学会自由研究発表「社会科授業における学習評価方略の構成－高等学校日本史Aの実践を事例に－」2012年10月21日 於 岐阜大学
第3回社会科評価研究会での発表「指導と評価の一体化に関する一考察」2012年10月27日 於 神戸センタープラザ第1会議室

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

・就職委員, 3学年担任など, 委員会等における職責を誠実に果たすことができるよう尽力する。

2. 点検・評価

就職委員, 3学年担任として, 以下の点に於いてその職責を果たすよう尽力した。

・就職委員:

模擬個人面接(5月, 11月), 模擬集団面接(6月, 2月)に面接官として参加した。

卒業予定者・修了予定者の進路の把握に努めている。

・3学年担任:

合宿研修に参加し, 学生の仲間作り, 教員採用試験の対策づくりなどの手伝いを行った。

学修キャリアノートの点検を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

・附属小学校, 中学校の研究会に積極的に参加する。

・大学と地域・社会との交流・連携を積極的に行う。

2. 点検・評価

・6月, 2月に行われた附属小学校の研究会に積極的に参加し, 指導助言を行った。

・岡山社会科授業研究会で, 「社会科における学習評価の在り方」についての講演を行った。

・学部3年生, 大学院生の教育実習を参観し, 学生への指導・助言を行った。

・大学院の授業で開発した授業の実践を北島小学校で行った。

・11月に大学院の授業の一貫で, 兵庫県小学校社会科研究会の授業見学及び検討会に参加した。

以上の活動を通し, 教員, 院生, 小学校の先生方との意見交流の場を持つことが出来た。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

今年度は, 着任三年目ということで, 本学の組織及びシステムの理解を踏まえた職務・職責の遂行とともに, 教育, 研究, 社会貢献の面での貢献が課題であった。昨年度と比べ, 発展的に職責を遂行することが出来, この課題はおおむね達成できたと言える。